

なぜなに やまもり

山や森についてもっと知ろう!

木の家は地球を守る?

木の家は地球の温暖化防止に貢献しています。
 森の樹木は光合成により、大気中の二酸化炭素(CO₂)を吸収し、酸素を発生させながら炭素(C)を固定し、成長します。木の重さの約半分が炭素と言われているので、その量は相当なものです。つまり木で家を建てることは、街にもうひとつの森をつくり、大気中の二酸化炭素を減らすことと同じなのです。



木の家は...

- ① 主に人工林のスギなどを利用しています
木の家に使われるスギなどの木材は、伐って、使って、植えて、育てる資源循環サイクルの中で生産されるため、伐ったら植えるということを続けていく限り、資源の枯渇を招くことはありません。
- ② 地球温暖化の防止に貢献します
若い森林はたくさんのCO₂を吸収しますが、年を取るにつれて吸収量が減ってきます。人工林では、植えてから50~60年で伐って、新しい木を植えることで森林の若返りが進み、CO₂の吸収量が元に戻ります。



出典:「平成30年度 森林・林業白書」(林野庁) (https://www.rinya.maff.go.jp) を加工して作成

広がる木材の利用! = 炭素の固定

木材を積極的に使用することで、地球温暖化防止に貢献します。

※山形県では「やまがた緑環境税」を活用して、手入れの遅れた森林を整備しています。

企業だって 株式会社 ニューテックシンセイ 編



株式会社ニューテックシンセイ 社長 桑原 晃さん

■企業について

株式会社ニューテックシンセイは、1980年創業の米沢市にある情報通信機器の製造会社です。主な生産品目は企業向けノートパソコンや、データセンター向けの記憶装置などです。近年は他分野への参入にもチャレンジし、半導体や有機ELパネル製造装置も生産しています。

■絆の森活動を始めたきっかけ

約8年前から情報通信機器を製造するための生産技術や品質管理のノウハウを活かして、地域らしさを感じられる商品やサービス開発に取り組み始めました。その事業では置賜地方の資源の一つである広葉樹を使ってMOKULOCK(もくロック)という木製ブロック玩具の製造・販売を開始しています。木製玩具の商品化をきっかけとして、木材を消費するだけではなく、自



安全のため、ハチを捕獲するトラップの設置



南陽高校の生徒との植樹

然の資源も生産する側として携わりたいと考え、森づくり活動にも関わるようになりました。

■これまでの活動について

活動当初は、下刈りや、植樹の方法を山形県や南陽市から指導を受けながら手探りの状態で森づくりをスタートしました。現在は、自社で春、秋の下刈りや、植樹などを実施しながら、南陽市と年間を通して継続的に活動を行っています。具体的には、地域の小学生の学年行事として、下刈り体験を3年間継続して実施しています。2020年は南陽高校の2年生の職業体験を兼ねたフィールドワークの一環として、枯れ木の伐倒や植樹体験、木育の学びを深めるために

MOKULOCKを活用したストラップ作り、木製スプーン作りなどの活動ができました。

■今後について など

既存の事業活動と森づくり活動を比較すると、短期間(1年後、3年後)で成果を期待するのは難しいと実感しています。一方で、自然が成長するペースを身近に感じる事で、企業での人材が成長するペースと同じような時間感覚に近い、との気づきを得ることができました。これからも地域と会社が繋がる場、地域の人のいっしょに育む場になることを意識して、取り組んでいきます。また、森づくり活動を通して、小学生、高校生の皆さんが体験したことを、10年後や



もくロックを活用したストラップのイメージ

20年後に親の立場になったときに、美しくなった森(十分一山を眺めながら思い出を子どもに伝えている姿を期待しています)。

読者プレゼント

抽選で㈱ニューテックシンセイから提供の「MOKULOCK24ピースセット」を10名様にプレゼント。詳しくはP.11をご覧ください。

★やまがた絆の森づくり推進事業★

企業などと森林所有者と県との三者協定による森づくり活動。令和3年1月末現在、38企業・団体、34箇所まで活動を展開中。